

小説

『^{やぐらだいて}櫓太鼓がきこえる』

鈴木 ふみ 著

高校中退後、呼出の見習いとして朝霧部屋に入門した^{あつし}篤。関取がおらず弟子の数も少ない弱小部屋で力士たちと生活をし、稽古と本場所を繰り返す日々が始まった。本番で名前を呼び間違えるなどの失態、先輩の支えや嫌がらせ。それでも土俵で声^{あつし}を上げ続ける篤は、一人前の呼出になれるのか。

小説

『^{あつし}天気良ければ訪ねて行きます』

イ・ドウ 著

都会での暮らしに疲れ、ペンションを運営している叔母の元でひと冬を過ごすそうと故郷の町に戻ってきたヘウオン。隣の空き家は、小さな本屋になっていた。店主は同級生のウンソブで、ヘウオンは彼の初恋の人だった。静かな田舎町で繰り広げられるヒーリングロマンス。

小説

『小説火の鳥 大地篇 上・下』

桜庭 一樹 著

1938年、日本占領下の上海。關東軍将校の間久部^{まくべ}緑郎は、伝説の「火の鳥」を探す密命を受けタクラマカン砂漠へ向かうことに。漫画家・手塚治虫による『火の鳥』続編の構想をもとに小説家・桜庭一樹がつむぐ歴史SF小説。

小説

『^{みなみ みきかぜ}或るギリシア棺の謎』

柄刀 一 著

カメラマンの^{みなみ}南美希風と、法医学者であるエリザベス・キッドリッジのもとに、財閥一族の^{あんどう あけみ}安堂朱海の訃報が届いた。長く患っていた彼女だったが、自殺と他殺の疑いが浮かび上がる。死後発見された謎めいた脅迫文や遺書、一族に受け継がれてきた因習、そして明かされる驚くべき真相とは何か。

小説

『^{あつし}はじまりの24時間書店』

ロビン・スローン 著

大学図書館に務めるペナンブラ。失われた幻の書物を見つけ出す使命を受けた彼は、サンフランシスコを訪れた。書物の手がかりを求め、街中の図書館や書店を訪ねるも書物は見つからない。しかし、捜索の末、彼は真夜中に風変わりな一軒の小さな書店「二十四時間書店」に辿り着く。

趣味 実用

『^{あつし}むかしむかしあるところに、哲学者がやってきた。』

小川 仁志 著

桃太郎、鶴の恩返し、おむすびころりんなど、7つの昔話の登場人物と歴史上の哲学者たちによる哲学問答をユーモラスなマンガで紹介する一冊です。昔話と関連付けて、難しい哲学思想をわかりやすく表現。提唱した哲学者もあわせて解説しています。

趣味 実用

『^{あつし}アフリカ人学長、京都修業中』

ウスビ・サコ 著

いけずな街京都に30年前にやってきたウスビ・サコ。アフリカのマリ共和国出身で、今では京都精華大学学長をしている彼の京都での暮らしを、独自の視点でユーモアたっぷりに語ります。京都特有の言葉のマナーや独自のコミュニティなど、京都の特性にユニークに切り込んだ一冊。

趣味 実用

『税金のホント』

近藤 雅人 著

多くの方が税金のことをほとんど知らない、教わる機会のないまま納税をしているのではないのでしょうか。消費税編、所得税編、税務行政編と分けて、税金のホントと知ったかぶりを身近な事例でわかりやすく解説しています。自分が支払っているホントの税金について知りましょう！

趣味 実用

『^{あつし}美しき鉄道橋の世界』

武田 元秀 著

鉄道橋とは、鉄道が川や溪谷、街などを渡るために設置された橋のこと。「ガーダー橋」「アーチ橋」「トラス橋」「吊橋」「斜張橋」などその種類もさまざまです。現在使用されている橋だけでなく、廃線にある橋梁も写真で紹介。橋の歴史もわかりやすく解説しています。

趣味 実用

『^{あつし}3月生まれあるある』

つぶやきシロー 著

日本社会は4月始まりが基準。小学生の頃は、3月生まれは体格や運動、勉強など、同級生から遅れを取ることが多くなるが、大人になってからは同学年の中でも年を取るのが遅いというメリットが。「成人式は19歳」「運転免許を取るのが遅くなる」など、3月生まれの悲哀と喜びをつづる。